

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1. アルファベット氏名	SHENG FANGZE		
カナ又は漢字氏名	盛 方沢		
2. 出身国又は地域	中国		
3. 学年	1		
4. 学校名	東京大学		
5. 学種	大学院	写真 タイトル	晴天の駒場キャンパス
6. 所属研究科・学部等名	数理科学研究科		
7. 学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ~ 終了年月 20 26 年 3 月		
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本は純粋数学において非常に長い伝統と厚みのある歴史を持っています。特に私の研究分野であるミラー対称性に関しては、東京大学やカブリ数物連携宇宙研究機構をはじめ、日本全体に世界的な専門家が多数在籍しています。こうした環境に身を置くことで、最先端の研究者から直接指導を受け、深い議論ができると考えました。この経験は私の現在の研究のみならず、将来の研究者としてのキャリアにも大きく寄与すると確信し、日本への留学を決意しました。			
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の留学の最大の目標は、ミラー対称性に関連する諸問題、とりわけ「ガンマ予想」の解決することです。現時点では、指導教員と共に、特定のケースである「楕円的オービフォールド直線 (elliptic orbifold lines)」における証明に取り組んでいます。			
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 東京大学数理科学研究科のある駒場キャンパスは、渋谷という繁華街の近くにありながら、一歩足を踏み入ると別天地のように静かで、豊かな自然に囲まれています。この「世外桃源」のような環境は、数学の思考に没頭するのに最適です。授業は代数幾何学など自身の専門に関連するものを中心に履修しています。特に印象深いのは「集中講義」です。1週間という短期間で集中的に体系的な知識を習得できるため、学期中の他の時間を研究活動に充てることができ、非常に効率的なカリキュラムだと感じています。指導教員や先生方が親身に接してくださり、遠慮なく相談できるため、学習や研究の進度を早めることができました。加えて、学習奨励費のおかげで、経済的な不安なくこれらの研究活動に全ての時間を注ぐことができています。こうした環境のおかげで、成績はこれまで『優』以上の評価を維持できています。			

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

私にとって最大の挑戦は、数学の授業の多くが日本語で行われることでした。高度な日本語能力が求められますが、日本人の学生たちは皆とても親切で、拙い日本語でも、忍耐強く耳を傾け、理解しようとしてくれます。授業内容の確認や議論においても、彼らは常に快く助けてくれました。この経験を通じて、語学力への不安があっても、積極的に話すことが大切だと学びました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

Kavli IPMUでは毎日午後にティータイムがあり、数学者だけでなく物理学者など異分野の科学者が集まり、議論しています。ここでの対話は、現在の研究に深いインスピレーションを与えるだけでなく、私の科学的視野を大きく広げてくれました。この経験から、今後は純粋数学の探求に加え、「AI for Science」のような学際的な領域にも挑戦したいと考えるようになりました。そして、数学的な知見を活かし、社会における実際的な問題の解決に貢献したいと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本には、世界中から優秀な研究者が集まる素晴らしい学術環境があります。留学前は言葉の壁や文化の違いに不安を感じるかもしれませんが、心配はいりません。勇気を出して一歩踏み出し、周囲の人と交流すれば、きっと多くの人が温かく支えてくれます。自分の専門性を深め、同時に視野を広げる場所として、日本は最高の環境です。ぜひ挑戦してください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	HU LONGHUI	非公開
カナ又は漢字氏名	胡 龍輝	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	1	
4.学校名	一橋大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	非公開	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は国際関係に強い関心を持ち、特に平和維持活動、内戦など、ガバナンスと人権の関係を学びたいと考えていました。日本の大学院は、理論研究と実証分析を重視しており、国際社会における平和構築研究の分野で高い評価を受けていることから、日本への留学を決意しました。 留学前には日本語能力試験N1を取得し、学術的な日本語表現にも慣れるよう独学で勉強を重ねました。また、指導教員の研究を事前に調べ、自分の研究計画を書き、研究の方向性を明確にして来日しました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 留学の主な目標は、国際関係学の理論と分析方法を体系的に学び、自分の研究テーマを独立した学術研究として完成させることです。また、日本語での学術的議論や発表に積極的に取り組むことも目標の一つです。 これまでに、平和研究や国際政治の授業を通じて理論的基礎を確立し、ゼミでは自分の研究計画を複数回発表し、教授やゼミの仲間からの意見をもとに仮説と分析枠組みを精緻化しました。日本語での発表や質疑応答も以前よりスムーズに行えるようになり、目標の約7割ほど達成できたと感じています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 大学院では、国際政治、公共政策、平和構築、統計分析など幅広い授業を履修しました。授業はディスカッション中心で、学生が主体的に意見を述べる機会が多くあります。先生方は学生一人ひとりの研究内容を丁寧に指導してくださり、学習環境も非常に整っています。 このような環境の中で研究を進めた結果、主要科目で高い評価を得ることができ、理論的思考力と分析力を大きく伸ばすことができました。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本に来て最初の頃は、授業での専門的な日本語やディスカッションでのスピードに苦労しましたが、クラスメートや先生方とのやりとりを通じて徐々に慣れてきました。

また、日本人の友達と研究や日常生活について語り合う機会が多くあり、学問だけでなく文化的価値観の違いについても理解が深まりました。地域の祭りや大学イベントにも参加し、伝統的な文化に触れることで、日本社会の多様性や協調性の大切さを学びました。これらの経験を通じて、異文化に対する理解力と柔軟な思考力、そして自分の考えを他者に伝えるコミュニケーション力が大きく向上したと思います。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本での留学経験は、私の今後のキャリアに大きな影響を与えています。研究を通じて政策分析や紛争解決に関する知識を深めることができたほか、異なる文化の中で協働する力も身につきました。

将来的には、国際機関や研究機関などで公共政策や平和構築の分野に携わりたいと考えています。日本での学びと経験は、国際社会で活躍するための確かな基盤になると感じています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、学問的な成長だけでなく、人生を豊かにする経験でもあります。最初は言語や文化の違いに戸惑うかもしれませんが、前向きに挑戦すれば必ず成長できます。

先生方や学生はとても親切で、努力する姿勢を見れば多くの支援を得られます。留学を考えている方は、日本語の準備をしっかりと行い、自分の研究や学びの目的を明確にしておくの良いと思います。挑戦を恐れず、一歩踏み出してみてください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	CHEN QINXUE	非公開
カナ又は漢字氏名	チン キンガク	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	修士一回生	
4.学校名	京都大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	経済学研究科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本へ留学する主な動機として、一つ目は、自身の能力を向上させ、より深い専門知識と研究能力を身につけることです。二つ目は、視野を広げ、より成熟した世界観を形成することです。異なる文化や社会制度を体験することで、多角的な思考能力を育成したいと抱いています。 これらの目標を達成するため、学部の時に1年間日本語を勉強し、日本語能力試験N1にて満点合格することができました。この言語能力が、日本での学習や日常生活において大きな支えとなっています。また、経済学の基礎知識を補強するため、関連する参考書を積極的に読むなど、事前準備にも力を入れました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学目標は、経済学修士課程を修了し、経済現象に対する多様な専門的な解釈を理解することです。現在は修士課程1年次の基礎科目を修了しつつあり、来年度から正式に修士論文の研究に取り組みたいと思っています。これまでの基礎科目の学習を通じて、経済学の理論体系を理解し、研究に必要な分析手法を習得することができました。今後は、自身の研究テーマに関する文献調査を進め、指導教員との議論を深めていきたいと思っています。 留学生学習奨励費は私にとって非常に大きな助けとなりました。この奨励費を使って、興味のある経済学の専門書や必要の生活用品を購入しました。また、日本の米価格は非常に高いですが、奨学金によって生活負担が軽減され、より多くの精力を研究と学習に注ぐことができるようになりました。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 主な学習科目として、上級ミクロ経済学、上級マクロ経済学、経済学ための数学、統計学、上級計量経済学などの経済学における中核的な専門基礎科目を履修しています。これらの科目は内容が深く、高度な論理思考と数学的な分析能力が要求されるため、非常に挑戦的です。 成績については、経済学数学で71点、上級ミクロ経済学で64点を取得しました。これらの結果から、まだ理解が不十分な部分があることを認識しており、今後は授業内容の復習を徹底し、学力を向上させるために努力します。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

留学中の主な文化体験として、ゼミの夏季合宿に参加し、飛騨の祭りを体験することができました。伝統的な山車の巡行や、地域の人々が一体となって行う祭りの様子がみられて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また、地元の大きな神社を巡りました。これまで日本の神社については教科書などで少し知っていましたが、実際に訪れることで、その建築様式や宗教的な意味合いをより深く理解することができました。特に、日本全国に数多くの神社が存在することに驚き、日本人の日常生活における宗教や伝統の位置づけについて新たな認識を得ることができました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本の経済発展の歴史を学ぶ中で、過去に直面した様々な経済課題について理解を深めることができました。これらの課題の中には、将来的に中国が直面する問題も含まれているかもしれません（少子高齢化・社会保障など）。今後はコンサルタントとして働くつもりですが、これらの経験や知識は非常に価値があるものと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本語の学習はとても重要です。留学前からしっかり勉強しておけば、現地での生活や学習にもすぐに慣れるでしょう。また、留学の醍醐味は、教室の外にも溢れています。ぜひ、専門分野の学習と並行して、日本社会そのものを「生の教材」として観察してみてください。コンビニの弁当から地域のお祭りまで、全てが学びの材料です。少しの好奇心と行動力で、あなただけの気づきや発見が得られるでしょう。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	CHEN ZIWEI		
カナ又は漢字氏名	陳子為		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	修士2年		
4.学校名	上智大学		
5.学種	大学院	写真 タイトル	入学式時の記念写真
6.所属研究科・学部等名	言語科学研究科言語学専攻日本語教育学コース		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ~ 終了年月 20 26 年 3 月		
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本へ留学するきっかけは、大学3年生のときに経験した北海道への交換留学です。中国の大学では日本語を専攻しており、3年生のときに1年間、北海道の大学へ交換留学しました。その際、優しい先生方や多国籍の友人たちとの出会いがあり、言語学習だけでなく、自分の視野を広げることができました。とても充実した一年間で、その素晴らしい経験から「もう一度日本で学びたい」という思いが強まりました。 準備としては、進学先の学校探しや英語力の向上に取り組みました。修士課程で日本語教育を学びたいと考えていたため、日本語の勉強に加えて英語学習にも力を入れ、中国でTOEICを受験しました。また、自分が出願可能な学校を調べ、外国人特別研究生や修士課程の出願を行い、必要に応じて教授へ直接メールで連絡するなどの準備も進めました。			
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の留学の目標は、学業と日本での生活の両方を全力で楽しみ、充実させることです。 留学当初は、日本語教師を目指して大学院の日本語教育学コースに進学しました。授業や同期とのディスカッションを通じて、多くの専門知識を身につけることができました。まだ日本語を教える仕事は始まっていませんが、中国語講師のアルバイトでは、大学院で学んだ教授法や言語学の知識を実際の授業に活かしています。 現在は、これまで学んだ知識や教授のご指導をもとに、日本語の多読活動に関する学習法について、修士論文の研究を進めています。			
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 私の専攻では、言語習得論、日本語教授法、社会文化に関する知識など、幅広い分野を学んでいます。授業は非常に専門性が高く、講師やクラスメートとの意見交換を通して理解を深めることができ、とても有意義です。 学校は都心に位置し、交通の便が非常に良いだけでなく、キャンパスや教室は新しい施設が整っており、どの領域の知識も学びやすい雰囲気の中で学ぶことができます。教授や同期の仲間、友人は皆親切で、安心して勉学に励める環境です。 大学院生として、学業を最優先と考え、常に全力で学習に取り組んでいます。修士1年次に履修した科目はすべてA評価を取得し、修士2年となった現在も、引き続き努力を重ねています。			

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本語を通して、さまざまな国や文化に触れられることが、留学生活で最も楽しいことの一つです。

私が受講している日本語の授業には、多様な国から来た留学生が集まっています。授業では、日本語や日本文化について学ぶだけでなく、互いの母国の文化について紹介し合う機会も多くありました。その中で、日本語が異なる文化同士をつなぐ架け橋となっていることを強く実感しました。

日本語や日本文化に興味を持っている私たちは、日本での留学生活を通じて出会い、交流し、語り合うことができました。こうした経験を通じて、自分が今まで知らなかった世界や文化を知り、視野を大きく広げることができたと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私の視野を大きく広げ、異なる国や文化への関心を高めてくれました。言語を媒介として多様な人々と交流することの楽しさを実感し、その経験から、国際的な環境で人と人をつなぐ仕事に強い興味を持つようになりました。

今後は、この留学で培った語学力や異文化理解力を活かし、グローバルに活躍できるキャリアを築いていきたいと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

外国人にとって、日本での就職活動は決して容易ではないと感じます。日本の就職活動は開始時期が早く、さらに個人の能力や適性を重視していると実感しました。エントリーシートから面接に至るまで、これまでの経験や能力について問われることが多く、その過程で自分のこれまでの生活や経験を振り返り、本当にやりたい仕事や自分に合う企業とのマッチングを考える機会になりました。

また、自分の経験を具体的なエピソードとして伝えることで、企業や面接官に自分の人柄や強みを知らることができ、双方向の選択が可能になります。留学生が日本で就職を目指す場合は、学校のキャリアセンターや留学生向け就職支援サイトなどを活用し、早い時期から準備を始めることを強くおすすめします。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

言語は、世界と出会うための大切なツールです。

日本語を学び、日本に留学することで、より広い世界や新しい発見、そしてこれまで知らなかった自分に出会うことができます。勇気を持って一歩踏み出し、日本でしか味わえない経験を楽しんでください。